



高山

マーケットイノベーション賞 『氷温熟成シャインマスカットをXmasへ』

たかやま葡萄園 高山 幸子

水道工事を営みつつ、多気町にて根域制限栽培という特殊な方法でぶどう栽培する高山達美さんと幸子さんご夫妻。もともと達美さんがインターネットで手にいれた1冊の本を頼りに“趣味”で始めたぶどう栽培。勤務時間の前後、休息もそこそこハウスに足繫ぐ通り、丹精込めてぶどうを育てています。

ぶどう栽培は“趣味”から始まった

9年前に遊びで始めたというぶどう栽培ですが、今では寝る暇もないほどに忙しいと達美さんは話します。昔、自宅のピクリグミという木にたくさんの実がなり、明日には収穫できると楽しみにしていたとき、裏山の猿たちに全部食べられてしまった経験をした達美さん。あまりの悔しさから家の庭に果実の鉢植えをたくさん並べて栽培を始めるようになったと幸子さんは当時は振り返ります。

しばらくして順調に収穫ができるようになり自宅の近くに小さいハウスを建ててぶどうの

苗を5本植えたのが、高山さんご夫妻のぶどう栽培の始まりとなりました。その後、達美さんが持ち前の行動力と器用さ、そして水道工事で培ったノウハウを活かしてハウスを増やしていきます。1冊の本を頼りに始めたぶどう栽培ですが、わからないことがあると、達美さんは著者と連絡をとり、広島県まで飛んでいたといえます。

徐々に収穫量が増えていき、ぶどうを水道工事事務の店先に並べ始めた「美味しい」とたちまち評判になりました。幸子さんは三重県工業研究所が特許をとった製法で、シャインマスカットを中心とした特上のセミドライにも挑戦していきます。

そんな幸子さんですが、水道工事事務をすべて担っており、その責任感から達美さんが趣味で始めたぶどう栽培に対して、当初「そんな時間は無い、絶対に手伝わない」と決めていたそうですが、その強い気持ちを180度変えたものがありました。



ぶどう栽培をやり始めた時期に『古事記』を習っていたという幸子さんは、ハウスで作業していると自然におりてくるという言葉をもとめた本をつくり、次の一文を載せています。「自らの仕事の価値を見出し、生き生きとやる。私の古事記との出会いは この部分からはじまるのです」(『古事記に学ぶ凸凹夫婦のぶどう栽培』高山幸子著より抜粋)。

ぶどうの実には、人の集まりのような組織があり、この1本の木が家族のように見えてくると幸子さんはいいます。大きい葉と小さい葉の枚数までしっかり管理しながら来年また実をつけるためにしっかり世話をしないとけない。そうすることで「水揚げ」といって、春が近づくと枝から水がぱたぱたと落ちてくるようになります。命の循環がはじまったと感じる瞬間です。ぶどうの1年は人の一生と同じ。ぶどうも人と同じように、それぞれ違う性格を把握して育てます。水道工事事務の仕事もしなくても、達美さんのぶどう栽培を手伝うことにした幸子さんのことを支えてくれたのは打開策

に気づかせてくれた『古事記』と、毎日触れている“ぶどうの命の成長”だったのです。多忙にもかかわらず今後の取り組みに意欲をみせる高山さんご夫妻は、あらたに根圏制御栽培を始めました。この栽培方法は少量の栽培土を用いて養水分を管理し、主枝を2段に配置することにより、早期成園化や品質、生産性の向上などを目指します。新しい取り組みのために屋根へあがって修繕をし、重機をつかって整地するのは達美さんが担当。「枝を棚にそわせる力仕事なども普段から主人がやってくれます」と幸子さん。

そしていま力を入れている『氷温熟成シャインマスカット』は、いちばん美味しい時期に収穫した糖度20度以上のシャインマスカットを、鮮度や水分を保つためにパラフィンテープや給水ホルダーなどを付け、ぶどうが凍る直前の温度±2度に設定した冷蔵庫で、クリスマス時期まで保存するというもの。「インターネットで見たクリスマス・シャインマスカットいかも。みなさんにクリスマスに食べてもらいたい。」と達美さんは笑顔で話します。



その達美さんの熱い思いを幸子さんがまとめあげてプレゼンテーションし、見事にマーケットイノベーション賞を獲得しました。お互いの良いところと得意なことを尊重し合い、自らを凸凹夫婦とよぶ高山さんご夫妻は、ぶどう栽培の体験を、いつかたくさんの人に知ってもらいたいと考えています。

誰かのお役にたちたい

水道工事事務の仕事に、ハウスを三つ掛け持ちしてやっていくのは難しいと考えていた幸子さんですが、「実際にやってみたら、お日様とともに起きなくなる、寝てられない。とにかくぶどうに関わりたい。人の生き様に触れてみたいですごく楽しい。学校や仕事に行きたくない」と話します。もともと趣味ではじめたぶどう栽培ですが、それを通じて応援してくれる三重県の人たちを始め、人の役に立ちたいと幸子さんは考えています。



新たな時代を切り開く農林水産ビジネスプランプレゼンテーション大会 2021年2月19日開催

昨年度の新型コロナウイルス感染症の拡大は、消費者の行動や価値観の基準、そしてビジネスを取り巻く環境を大きく変え、わたしたちに大きな衝撃を与えました。この時代を乗り切るための知識やスキルを専門家から学ぶ「新たな時代を切り拓く農林水産人材育成セミナー」修了者が、セミナー後のフォローアップを受け、今後のビジネスプランを発表する場として、令和3年2月19日三重県総合文化センター小ホールにて「新たな時代を切り拓く農林水産ビジネスプラン」プレゼンテーション大会(オンライン)が開催されました。出場者により、商品がもつ魅力や、今後の事業の可能性などが続々とプレゼンテーションされました。

